平成 30 年度　第３回広島市感染症対策協議会

平成 30 年６月 18 日

【日　時】　平成 30 年６月 18 日（月）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第７会議室
【出席者】　小林　正夫、石川　暢久、吉川　宏治、髙橋　宏明、佐藤　貴、
増田　裕久、藤本　三喜夫、松原　啓太、南　心司

１　感染症に関する最近の情報《公開》

（１）麻しんの流行状況等について（資料１　Ｐ1～23）

沖縄県では、本年３月 20 日に４年ぶりとなる麻しん患者が報告されて以降、麻しんの発生動向について監視が強化されてきたが、５月 11 日に医療機関を受診した患者を最後に４週間新たな患者が発生しなかったことから、６月 11 日をもって今回の麻しん流行の終息が宣言された。なお、最終的に 99 人の患者が報告された。

他方、愛知県における麻しん患者の発生は継続しており、４月 11 日に初発患者が発生して以降、６月 11 日までに 25 名の感染が確認されている。直近に名古屋市で発生した患者については、これまでの一連の麻しん患者とは関係性が確認できないとされており、名古屋市は引き続き、市民への周知・啓発に努めるとしている。

本市においても、引き続き、ホームページ等で麻しんに関する情報提供を行い、特に海外渡航される方へ注意を呼び掛けていく。

なお、国は麻しん・風しん特定感染症予防指針の改正を検討しており、６月８日に開催された第４回の小委員会において、①定期予防接種実施率向上に向けた対策の強化、②児童福祉施設、医療機関等における対策の強化、③輸入症例への対策強化、④風しん抗体検査から予防接種への結び付け、⑤広域感染発生時の対応の強化を推進する方向性が示された。麻しん・風しん対策については、世間の関心も高まっており、今後の動向に注視したい。

（委員意見）

沖縄県の麻しん流行が終息したことは一安心であるが、名古屋市をはじめ、他の地域では患者の発生が継続しているため、引き続き、市民への啓発をお願いしたい。

（２）HIV（エイズ）検査普及週間における取組結果について（資料１　P24～31）

６月１日（金）から６月７日（木）の HIV 検査普及週間においては、厚生労働省や（公財）エイズ予防財団等が、HIV（エイズ）無料検査の PR や HIV（エイズ）に関する正しい知識の普及啓発を行うため、様々なイベントを実施した。

同期間中、本市においても、HIV（エイズ）臨時検査を実施するとともに、各区の保健センターでは、HIV（エイズ）に関するパネル展示、大学で性感染症予防に関する講習会を行う等の普及啓発を行った。

なお、期間中に保健センターで行った HIV（エイズ）検査の件数は合計 94 件であった。このうち、中保健センターで実施した６月１日の夜間臨時検査件数は 32 件、６月２日の休日臨時検査件数は 24 件であった。HIV（エイズ）検査の受検者が減少傾向にある中、今回この２日間の受検者数が伸びた要因として、ホームページや Facebook 等での周知のほか、梅毒迅速（即日）検査を試験的に導入した効果があったものと推察される。

当該期間のみならず、今後も、HIV（エイズ）検査の積極的な受検勧奨、HIV に関する普及啓発に努めていきたい。

（委員意見）

啓発方法の工夫や梅毒迅速（即日）検査の導入により、HIV（エイズ）臨時検査の受検者数が増加したことは大きな成果であり、今後も真に検査を必要とする人が受検しやすい環境づくりに努めてほしい。

（３）「咽頭結膜熱警報」の発令について（資料１　Ｐ32～33）

平成 30 年５月 31 日、広島県北部保健所管内において、咽頭結膜熱患者の定点報告数が 3.50 となり、警報発令基準値（定点あたり３）を上回ったため、広島県は「咽頭結膜熱警報」を発令した。平成 30 年第 23 週現在、本市においては、定点当たり 0.75 と警報レベルを下回っているが、例年、夏季にかけて流行が見られることから、引き続き注意を呼び掛けていく。

（委員意見）

特になし。

（４）ダニ媒介感染症に係る注意喚起について（資料１　Ｐ34～36）

今般、北海道旭川市において、国内５例目のダニ媒介脳炎の発生が確認され、旭川市がプレスリリースを行った。

これを受け、厚生労働省は、ダニ媒介感染症に対する予防対策や発症した場合の対応等について、改めて広く注意喚起するよう各自治体に通知した。
マダニの多くはこれから活動が活発化するため、本市においても、引き続きホームページ等で感染予防策等について周知していく。
（委員意見）
年中活動するマダニもいるため、年間を通じた感染予防対策が必要である。

２　５月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料２、３）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病　　名	５月分	６月分
		報告日 5/7～6/3	報告日 6/4～6/15 現在
２類	結核	９人 （結核６人、潜在性結核３人）	３人
４類	Ａ型肝炎	１人（5/11）	
	デング熱	１人（5/16）	
	日本紅斑熱	１人（5/22）	１人（6/6）
	レジオネラ	８人（5/8、5/14、5/14、5/21、5/29、5/29、5/31、6/1））	２人（6/5、6/7）
５類	アメーバ赤痢	３人（5/21、5/22、5/24）	
	カルバペネム腸内細菌科細菌感染症	１人（5/28）	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	１人（5/8）	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	４人（5/15、5/15、5/15、5/16）	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	１人（5/14）	
	侵襲性肺炎球菌感染症	１人（5/8）	
	梅毒	１０人（5/11、5/14、5/15、5/18、5/18、5/28、5/28、5/28、5/30、6/1）	４人（6/4、6/11、6/11、6/13）
	百日咳	５人（5/9、5/14、5/25、5/31、5/31）	４人（6/4、6/7、6/7、6/13）

（　）は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　平成 30 年７月 17 日（火）　14 階第７会議室

【資料】
資料１：最近の感染症情報
資料２：５月の感染症の概要
資料３：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（６月分）

平成３０年６月１８日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、5月は1,509人で、前月比0.94とほぼ横ばいであった。

咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナは大きく増加、流行性耳下腺炎は増加、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんはやや増加、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎はやや減少、ＲＳウイルス感染症は減少、インフルエンザ、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は大きく減少した。

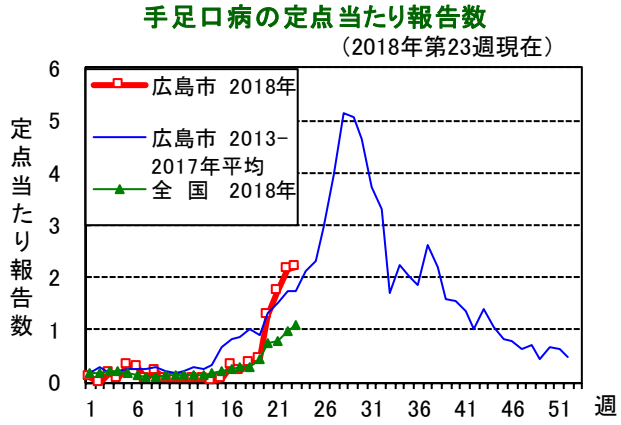
(2) 特記事項

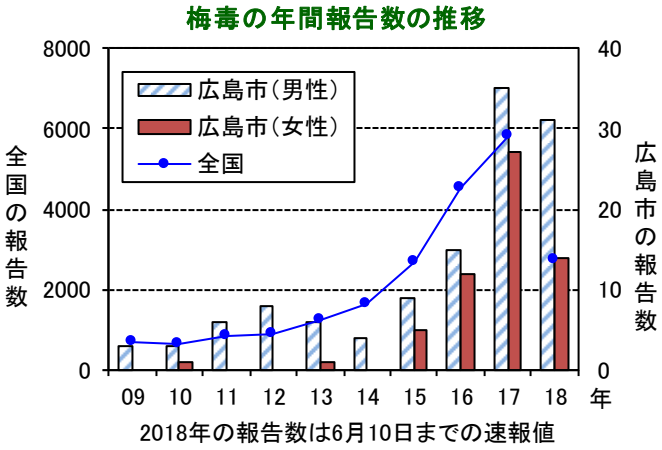
● 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナは、夏季を中心に流行するウイルス性の感染症である。広島市では、これらの感染症が増加傾向で推移しており、今後流行が拡大する可能性がある。手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなど感染予防対策を徹底することが重要である。なお、現在、広島県は咽頭結膜熱警報(5月31日付)を発令している。

● 梅毒の今年の累計報告数が、6月10日現在で45件(昨年同時期の約1.9倍)となり、過去最多だった昨年(62件)を上回るペースで増加している。その内訳は、男性31件、女性14件で、男性では30代、女性では20代が最も多くなっている。感染の疑われる症状がある場合には、早期に医療機関を受診することを勧める。

● 熱帯・亜熱帯地域では、蚊が媒介する感染症(デング熱、ジカウイルス感染症等)が流行している。なお、広島市ではデング熱が1件(輸入症例)報告されている(6月10日現在)。蚊媒介感染症の流行地域を訪れる際は、肌を露出しない長袖・長ズボンを着用する、昆虫忌避剤(虫除けスプレー等)を使用するなど、蚊に刺されないように注意する必要がある。

● 春から秋にかけてダニ類が媒介する感染症(重症熱性血小板減少症候群、日本紅斑熱等)が報告される。予防には、山や草むらへ入るときは長袖・長ズボンを着用して肌の露出を避け、屋外活動後は入浴してダニが付着していないかを確認するなどの対策をとることが重要である。なお、今年、広島市ではつつが虫病が1件、日本紅斑熱が2件報告されている(6月10日現在)。





(3) ５月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし
２類感染症：結核 9件（患者：6件、潜在性結核：3件）
３類感染症：なし
４類感染症：Ａ型肝炎 1件　　デング熱 1件　　日本紅斑熱 1件　　レジオネラ症 8件
５類感染症：アメーバ赤痢 3件　　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件
クロイツフェルト・ヤコブ病 1件　　劇症型溶血性レンサ球菌感染症 4件
侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件　　侵襲性肺炎球菌感染症 1件
梅毒 10件　　百日咳 5件

(4) 今後の流行予測

咽頭結膜熱・・・・・・【流行始まり】　　手足口病・・・・・・【流行始まり】
ヘルパンギーナ・・・・【流行始まり】

２　検査情報

5月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	3月	1 人
	インフルエンザウイルス A(H3)型	4月	2 人
感染性胃腸炎	A群ロタウイルス	3月	1 人
手足口病	エンテロウイルス 71 型	4月	2 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2 型	4月	2 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37 型	3月	1 人
	アデノウイルス 85 型	3月	1 人
	アデノウイルス 85 型	4月	1 人
その他の呼吸器疾患　(咽頭炎)	ヒトボカウイルス	3月	1 人
	ライノウイルス	4月	1 人
その他の消化器疾患　(腸重積症)	アデノウイルス 2 型	3月	1 人
	アデノウイルス 2 型	4月	1 人
	アデノウイルス 5 型	4月	1 人
	A群ロタウイルス	4月	1 人
その他の神経系疾患　(その他)	ライノウイルス	4月	1 人
その他の疾患　(不明熱)	ヒトコロナウイルス HKU1	4月	1 人
	ライノウイルス	4月	1 人

20 人の患者から 11 種類のウイルス 20 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H3)型及びライノウイルス各 3 株、アデノウイルス 2 型、同 85 型、エンテロウイルス 71 型、コクサッキーウイルス A2 型及び A 群ロタウイルス各 2 株、アデノウイルス 37 型、同 5 型、ヒトコロナウイルス HKU1 及びヒトボカウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
（平成30年5月解析分）

1. 週報対象（第19週～第22週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↓	28	0.75		10	流行性耳下腺炎	↗	22	0.93	
2	咽頭結膜熱	↑	88	3.68	流↗	11	RSウイルス感染症	↘	22	0.92	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇗	280	11.67		12	急性出血性結膜炎		2	0.25	
4	感染性胃腸炎	⇘	720	30.01		13	流行性角結膜炎	⇘	35	4.38	
5	水痘		18	0.75		14	細菌性髄膜炎		−	−	
6	手足口病	↑	136	5.67	流↗	15	無菌性髄膜炎		−	−	
7	伝染性紅斑		2	0.08		16	マイコプラズマ肺炎		2	0.28	
8	突発性発しん	⇗	44	1.84		17	クラミジア肺炎		1	0.14	
9	ヘルパンギーナ	↑	76	3.17	流↗	18	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↓	12	1.71	

2. 月報対象（5月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	47	5.22
2	性器ヘルペスウイルス感染症	↘	8	0.89
3	尖圭コンジローマ		12	1.33
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇘	17	2.43
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		4	0.57
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		−	−

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	⇗	⇘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	⇨	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（平成30年5月分）

第19週～第22週（5月7日～6月3日）報告分

類型		疾患名	広島市		全国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	9	61	1,788	8,651
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	2
	16	細菌性赤痢	－	－	19	78
	17	腸管出血性大腸菌感染症	－	1	286	558
	18	腸チフス	－	1	3	18
	19	パラチフス	－	－	2	10
四類	20	E型肝炎	－	－	38	168
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	1	1	123	358
	23	エキノコックス症	－	－	1	4
	24	黄熱	－	－	－	－
	25	オウム病	－	－	－	3
	26	オムスク出血熱	－	－	－	－
	27	回帰熱	－	－	－	－
	28	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	29	Q熱	－	－	－	1
	30	狂犬病	－	－	－	－
	31	コクシジオイデス症	－	－	－	－
	32	サル痘	－	－	－	－
	33	ジカウイルス感染症	－	－	－	－
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	－	17	27
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	1	1
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	－	1
	40	つつが虫病	－	1	26	76
	41	デング熱	1	1	19	53
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	1	1	33	52
	46	日本脳炎	－	－	－	－
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	－	1
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	－	2
	55	マラリア	－	－	5	18
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	－	－
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	1	1
	61	レジオネラ症	8	9	194	524
	62	レプトスピラ症	－	－	1	1
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	3	6	72	336
	65	ウイルス性肝炎	－	2	25	80
	66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	2	148	678
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	4	7
	68	急性脳炎	－	4	43	334
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	2	8
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	24	89
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	4	57	342
	72	後天性免疫不全症候群	－	3	118	511
	73	ジアルジア症	－	－	4	32
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	50	211
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	2	17
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	1	8	383	1,786
	77	水痘（入院例に限る。）	－	－	43	170
	78	先天性風しん症候群	－	－	－	－
	79	梅毒	10	44	577	2,601
	80	播種性クリプトコックス症	－	－	16	73
	81	破傷風	－	－	13	38
	82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	1	7	21
	84	百日咳	5	14	680	1,929
	85	風しん	－	4	20	34
	86	麻しん	－	－	42	167
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	2	8